

リーダーシップ

後藤 忠

そろそろ学級担任として先が見えてきた30代の後半、久保千里先生を敬愛する数人の有志が、月に1回先生を囲んで様々なジャンルの本を輪読する勉強会をしばらく続けたことがあった。

高神覚昇の「般若心経講義」、河合隼雄の「母性社会日本の病理」、梅原猛の「地獄の思想」、「隠された十字架」、世阿弥の「風姿花伝」など内容は多彩だった。(敬称略)

その中に、國分康孝の「リーダーシップの心理学」があった。

学級担任は学級の子どものリーダーである。リーダーの真の仕事は何か、資質は、マネジメントのイロハは何かなど、多くのことをここから学んだ。しかも、その学びは学級担任時に止まらなかった。指導主事になっても、校長になっても、また研究会等の組織運営の役職に就いてからもずっと私の中に生きて、脚下照顧の根拠となった。

リーダーの仕事は、実に苦勞の多い仕事である。辛くて、苦しくて、難しく、嫌なことの連続だった。しかも、真の評価はその立場を離れた後で決まる、まるで天国に宝を積むような献身の仕事である。

ゆえに、尊いのだ。

リーダー達よ、腹を括って頑張れ！

リーダーシップとは、集団目標達成のために、各メンバーが連帯感をもちながら各自の能力をフルに発揮できるように援助する能力のことである。 <國分康孝>

リーダーの仕事

- 1 集団の目的と理想を熱く語る。

- 2 集団の目標を明確に掲げる。
- 3 メンバーの役割にまつわる権限と責任を明確にする。
- 4 メンバー一人一人の興味・関心・能力と現実条件の一致を図るよう配慮する。(適材適所)

目標設定の留意点

- 1 集団にもメンバーにも意味のある目標(燃える目標)を設定する。
- 2 達成可能な目標(目標は高からず低からず、成就感が味わえる)を設定する。
- 3 目標達成のための手順を示す。
- 4 目標設定にメンバーの参加を促す。
- 5 設定した目標の周知徹底を図る。
- 6 ポジティブな評価に努める

メンバーがすすんで守るルール

- 1 メンバーの発達と心理に合っていて無理がないこと
- 2 ルールがその時代の文化や価値観から逸脱していないこと
- 3 リーダーの哲学が反映されていること

グループがまとまるために

- 1 グループに参画することで各メンバーの欲求が充足されること
- 2 えこひいきがないこと
- 3 集団に「ルール」があること
- 4 リーダーがメンバーの依存の対象であること
- 5 同質化を促進すること
メンバー相互の接触の機会を多くする
・ 外部からのプレッシャーや外部組織との競争状態の共有を図る
・ 対外的評価を高める
・ メンバー同士の競争は避け、協力し合う関係を作る